

もくじ

アドミッションセンターの役割

林 篤裕

(名古屋工業大学 社会工学専攻
& アドミッションオフィス)
e-mail: hayashi.atsuhiro@nitech.ac.jp



資料掲載URL: stat.web.nitech.ac.jp/haifu/#ACSeminar1704

1. アドミッションセンターに至る道のり
2. AO入試
3. アドミッションセンターとは
4. 求められるスキル
5. まとめに代えて

【備考】本資料中に取り上げている「中教審答申」とは「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～」(中教審第177号、2014年12月22日)を指す。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm

1. アドミッションセンターに至る道のり 大学入試の種類

u 一般入試

u 一期校・二期校

u 共通第1次学力試験+個別学力試験

u 大学入試センター試験+個別学力試験

(u 特別入試) ==> 「多様な入試方法」

u AO入試

u 専門学科・総合学科卒業生入試

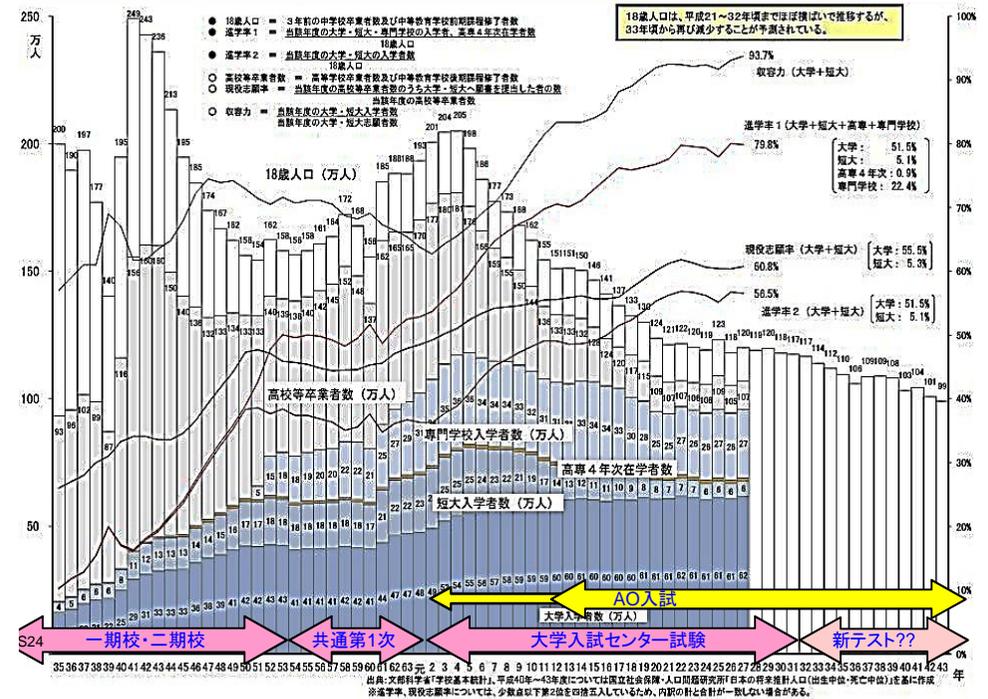
u 推薦入試

u 帰国子女入試・社会人入試

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1346785.htm
入学者選抜実施要項

18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移

資料3-6



国立大入試の外形的定義

	一般入試	推薦入試	AO入試
受験資格	高校卒業	ほとんど現役のみ	現役とは限らない
推薦	不要	学校長による1人1推薦	受験生の自己出願
定員比	前期/後期	5割まで	推薦と併せて5割未満
入学義務	制約なし	あり	課す場合は大学の責任で
実施時期	2、3月	11月以降に募集・実施	特に規定なし
指定校等	なし	大学によって異なる	大学によって異なる
センター試験	課す	課す/課さない	課す/課さない
選抜方法	学力検査	小論文、面接など	他に、面談、講義等、多様

国大協が取りまとめ、入試センターを介して実施

国大協と高等学校校長会との取り決めによる

特に制限がない選抜で、全ては実施大学の責任で

2010年からガイドライン8月以降に募集

2. AO入試

- 元々はアメリカが起原
 - 大学職員(not 教員)が選考
 - 主には高校修学時の履修科目のチェック
 - 「出口管理の国」での制度 <====> 日本: 入口管理
- 1990年: 日本では慶應義塾大学が嚆矢・鎚矢
 - 日本の入試文化に改変して持ち込む
 - 2000年「AO入試元年」
- 2007年: 韓国も導入＝アメリカ型のAO入試
 - 入学査定官制度: 公平性の担保にも腐心しているようだ
 - 教育問題が政治的課題になり易い。私塾への風当たり

日本におけるAO入試の導入

AO = Admissions Office

アメリカの大学で入試業務を担当する組織

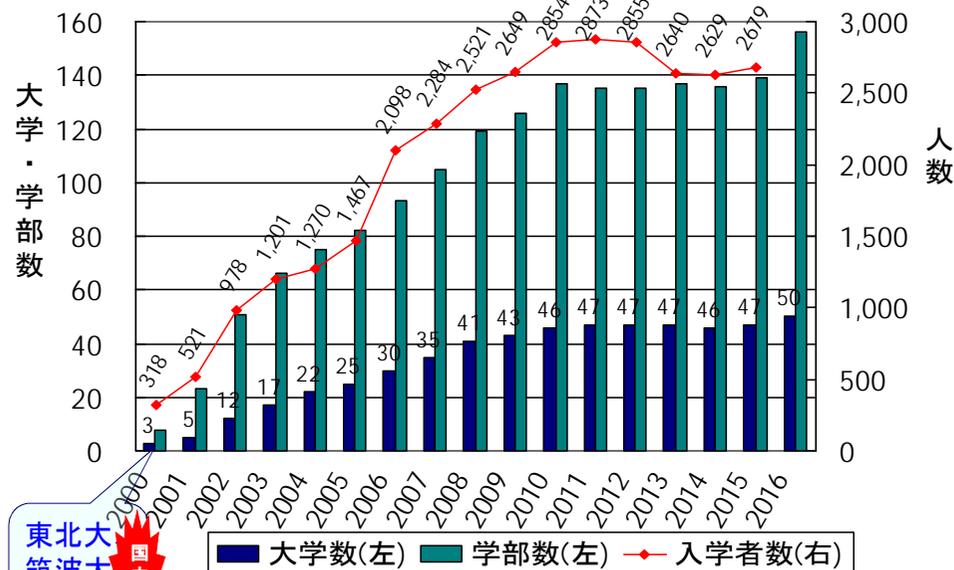
詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法 (文部科学省)

1990	慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC)
1997	中央教育審議会第二次答申(6月)
1999	国立3大学(東北、筑波、九州)にアドミッションセンター
2000	70余大学が実施(AO入試元年)

2015	国立 47大学 (全82大学) 57%	43大学 (全82大学)
	公立 23大学 (全84大学) 27%	20大学 (全74大学)
	私立 464大学 (全580大学) 80%	457大学 (全566大学)
	合計 534大学 (全746大学) 72%	520大学 (全722大学)

[2009年]

国立大学のAO入試の推移



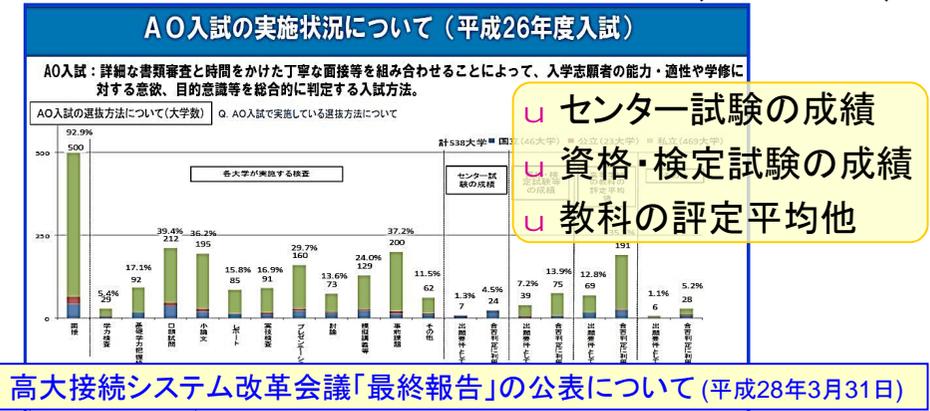
東北大 筑波大 九州大 国立大初 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/10/1362966.htm)

AO入試の特徴

- 当初、年を追うごとに増加、近年は一区切り
- 正解がある教科・科目試験だけでは測れない
 - 学力、能力、資料の理解力、論理的思考力
 - 意欲、関心、やる気
 - 適性(アドミッションポリシーとの適合)
- などを、本人を直接観ることによって測り、総合的な評価により選抜
- 間接的には、受験生に大学をよりよく知ってもらい、進学への決意を固めてもらうことにもなる。
- 審査委員の美学・審美観、平等性・公平性・客観性
- 「1点の呪縛」からの開放

AO入試の選抜方法

- 面接
- 学力検査
- 基礎学力把握検査
- 口頭試問
- 小論文
- レポート
- 実技検査
- プレゼンテーション
- 討模擬論
- 授業等
- 事前課題
- 書類審査



[例] 九州大学 AO入試 選抜方法

実施学部等のアドミッションポリシーにより異なる

小論文(理を除く学部学科で実施)

正解のない課題

資料の理解力や論理的思考力・表現力を見る

課題探求試験(理)

簡単な実験を行って考察する(物理・地惑)

数学的思考力が問われるやや難しい問題(数学)

面接等(全ての学部学科で実施)

個人面接 and/or 集団面接(法、医・保健、歯、21cp)

午前小論文 or 課題探求試験があればその試問

[例] 九州大学 AO入試の選抜方法

セ試	学部等	1次選抜	2次選抜	
課さない	21世紀プログラム	書類審査	講義・レポート/討論, 小論文, 面接	
	教育	小論文 (小論文)	プレゼンテーション, 面接 (口頭試問)	
	薬	創薬科学 臨床薬学	(書類審査) (書類審査)	(小論文, 面接) (小論文, 面接)
課す	法	書類審査	英語学力試験, 面接	
	物理		課題探求試験, 面接	
	化学		面接	
	地球惑星		課題探求試験, 面接	
	数学		課題探求試験, 面接	
	生物		面接	
	医		保健(3専攻)	小論文, 面接
	歯		環境設計	小論文, 面接
	芸工		工業設計	面接, 実技
			画像設計	面接, 実技
音響設計		実技		
農	芸術情報設計	小論文, 実技を含む面接		
		小論文, 実技		
			小論文, 面接	

09年終了
12年終了し
後期に移行
15年再登場

センター試験成績

AO入試の利点と欠点

u 利点

- u ミスマッチが少ない
 - l 両者の理解の下、入学
 - l 大学の理解、満足度
- u 「カナリア効果」: 他の学生への波及効果
- u 学力に明確な差はない: 前期、後期、AO
 - l 渡辺・福島(2008)、「公表データからみるAO入学者の評価」、大学入試研究ジャーナル、No.18。
- u 学部教員に高校生を見せる

u 欠点

- u 手間がかかる : [優秀な学生が確保できる]
- u 高校側からは対策が立て難い : [そうあるべき!]

13

AO入試の + と -

受験生・高校

+(長所)
学力以外の資質も見てもらえる
大学・学部をよく知って入学できる
大学生活を模擬体験できる
大学・学部への適合率が高い

-(短所)
どう指導して良いか難しい
評価・判定の基準が判り難い
落ちた場合を考えるとリスクである

大学

+(長所)
大学に必要な資質を見る
丁寧に選抜できる
意欲・関心の高い学生を早く得られる
直接受験生と接することができる

-(短所)
手間暇がかかる
基礎学力を測るのが難しい
他人の知恵が入っているかも
対策への対策の工夫をどうするか

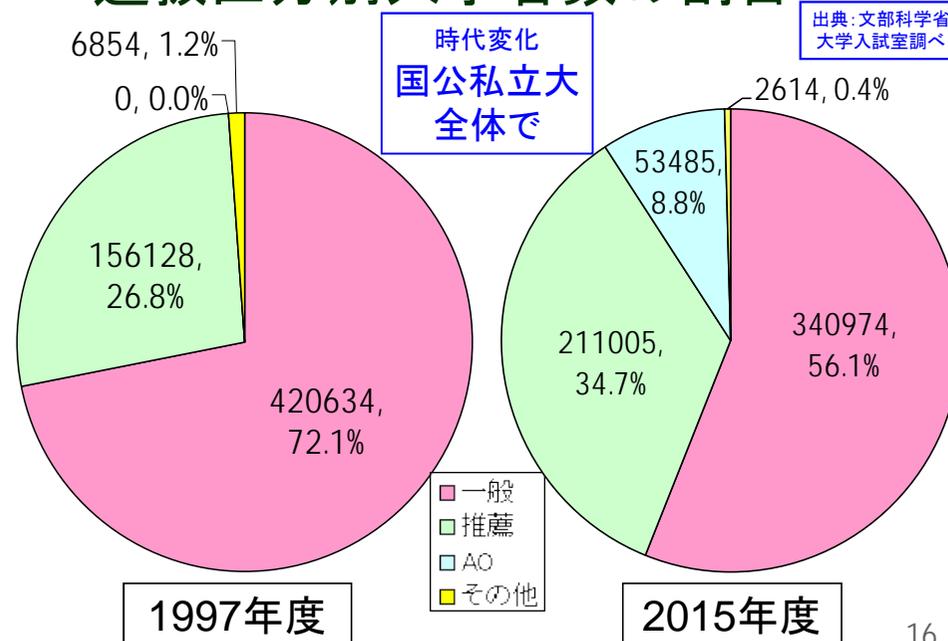
14

AO入試: 国立大と私立大

- u 設置者に因って明らかに異なる
 - u 割合 ==> 次ページ
 - u 試験方法
 - u 導入目的も?
- u 国立大: 「学力不問」ではない
学力も重要な「評価対象」の一つ

15

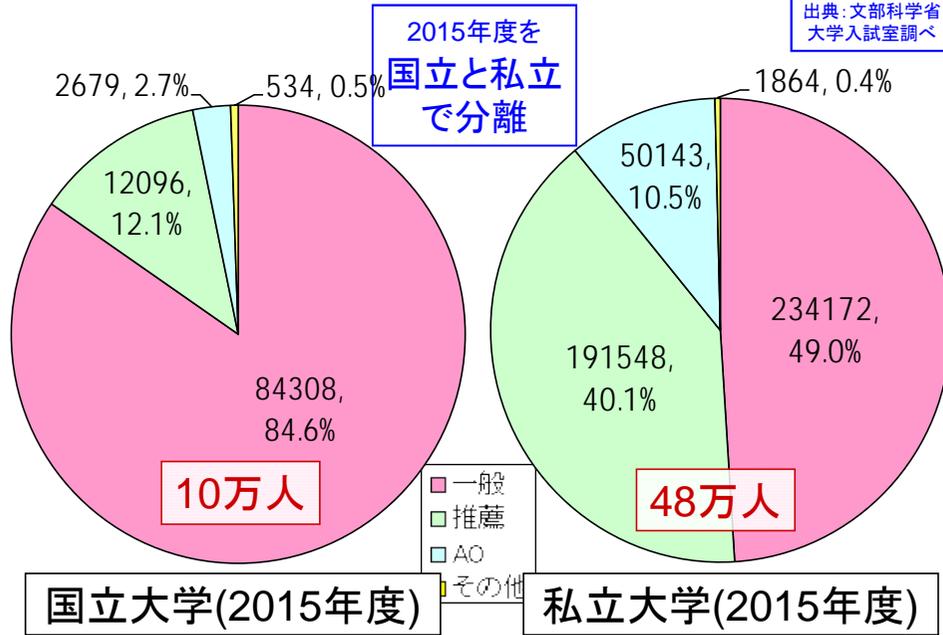
選抜区分別入学者数の割合



16

選抜区分別入学者数の割合

出典: 文部科学省
大学入試室調べ



日本のAO入試

- 国立大学と私立大学とで全く異なると考えてよい
- アメリカのAO入試とも異なる
 - 主に事務員(Officer、not 教員)が関与
 - この中にもいくつかのタイプがあるのかもしれないが
- AO入試: 同じ名称だが、3つとも違ったものである
 - 「日本の国立大学」のAO入試
 - 「日本の私立大学」のAO入試
 - 「アメリカ」のAO入試
- それぞれは区別して議論すべき: 国立、私立、米、韓
 - 区別しないと非生産的な議論にしかない
 - 「学科試験を課していないから……」はダメ
 - 「AO入学の学生は……」はダメ

3. アドミッションセンターとは 歴史

- 1999年(H11) 国立3大学にAC開設:
 - 東北、筑波、九州。翌年には北海道にも
- 2000年(H12) AO入試元年: 全国70余大学
- 当初: AO入試の管理・運営部署として
- 時代と共に:
 - IR、高等教育改革、中教審答申等々……
- 現在は多様な用務を担っている: 後述
 - ====> ACの役割は? 将来像は?
 - ※ 夏目先生からの「宿題」(2009年4月)

現状

- 国立大学アドミッションセンター連絡会議: 25大学
 - 北海道大、旭川医科大、岩手大、東北大、山形大、茨城大、筑波大、横浜国立大、電気通信大、福井大、富山大、静岡大、京都工芸繊維大、鳥取大、岡山大、広島大、山口大、香川大、愛媛大、高知大、九州大、佐賀大、長崎大、鹿屋体育大、琉球大
 - 未加入も散見される。 [全国的な新しい取り組みもあるのだとか]
- 四国地区国立大学連合アドミッションセンター(5大学)
- 昨年度、今年度: 開設が盛ん。教員募集も頻繁。
 - 「共通政策課題(入学者選抜改革)」
 - 東大、京大、名大、名工大、九大、福島大、... 20以上
- 多面的・総合的評価を目的として <==== 中教審答申
- いろいろな形態・運営方法:
 - 教員主体、事務系主体、協働型、時限制(任期制)、……
 - しかし、人材が不足しているのではないか?
 - 「入試」という特殊性・秘匿性、ミスが許されない、……

AC関連の事業(1)

「大学入学者選抜改革推進委託事業」: 文部科学省 5グループ (2016(H28)-2018(H30))

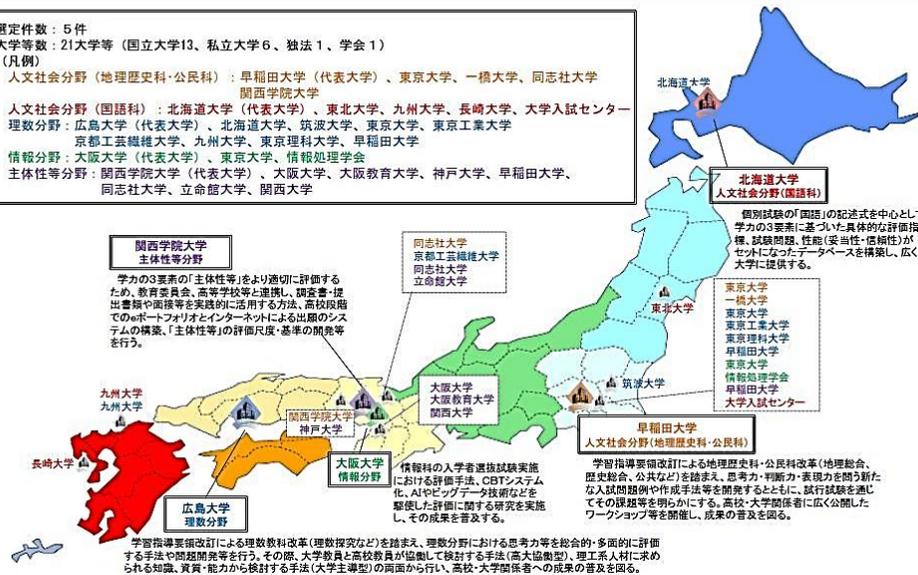
http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1376470.htm
 本事業は、大学入学者選抜に関する専門的・実証的な研究能力を有する機関に委託して、以下に示す対象分野について、各大学における大学入学者選抜改革を進める上での具体的な課題や問題点を整理するとともに、特に「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する多面的・総合的な評価を行うための実践的で具体的な評価手法を構築し、その成果を全国の大学に普及することにより、各大学の入学者選抜改革を推進するものです。

中教審答申実現に向けての模索

- u 人文社会分野(地理歴史科・公民科): 早稲田大学 他4大学
- u 人文社会分野(国語科): 北海道大学 他3大学、1団体
- u 理数分野: 広島大学 他8大学
- u 情報分野: 大阪大学 他1大学、1団体
- u 主体性等分野: 関西学院大学 他7大学

本事業では、各大学の入学者選抜において、「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価がより重視されることとなるよう、代表大学と参加大学等がコンソーシアムを組み、人文社会(地理歴史科・公民科・国語科)、理数、情報、面接・調査書等に関する評価手法の開発に取り組み、その成果を普及する。

○選定件数: 5件
 大学等数: 21大学等 (国立大学13、私立大学6、独立1、学会1)
 (凡例)
 人文社会分野(地理歴史科・公民科): 早稲田大学(代表大学)、東京大学、一橋大学、同志社大学、関西学院大学
 人文社会分野(国語科): 北海道大学(代表大学)、東北大学、九州大学、長崎大学、大学入試センター
 理数分野: 広島大学(代表大学)、北海道大学、筑波大学、東京大学、東京工業大学
 京都工芸繊維大学、九州大学、東京理科大学、早稲田大学
 情報分野: 大阪大学(代表大学)、東京大学、情報処理学会
 主体性等分野: 関西学院大学(代表大学)、大阪大学、大阪教育大学、神戸大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学、関西大学



AC関連の事業(2)

「大学教育再生加速プログラム」: 文部科学省、学振 (2014(H26)-2019(H31))

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/ap/
 http://www.jsps.go.jp/j-ap/

- H26
- u テーマⅠ アクティブ・ラーニング:(9)
 - u テーマⅡ 学修成果の可視化:(8)、Ⅰ & Ⅱ 複合型:(21)
 - u テーマⅢ 入試改革・高大接続(高等専門学校は対象外)
 - l [入試改革] 大学入学者選抜を、意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するもの。(3)お茶大、岡大、追手門学院大
 - l [高大接続] 高等学校関係者と大学関係者との間で互いの教育目標や教育内容、方法について相互理解を図ること等により、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進めるもの。(5) 千葉大、東京農工大、愛媛大、三重県立看護大、杏林大
- H27 u テーマⅣ 長期学外学修プログラム(ギャップイヤー):(12)
- H28 u テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化:(19) 23

4. 求められるスキル

ACの担っている用務(1)

- u 対学外: 高校生、高校教諭、保護者、PTA対象
 - u オープンキャンパス(OC)
 - u 広報活動
 - u 進学説明会: 大学間連携での実施、受験産業主導
 - u 高校での講演、説明
 - u 来学者への講演、説明
- u 講演の内容: 多岐にわたる
 - u 大学、学生生活、研究、就職状況、入試動向、.....
- u 訪問目的を明確に: 総合的学習の時間を有効に
 - u 焦点を絞る、ストーリー、プレゼンテーション方法、DVDの放映だけで良いのか?
- u (受験生の困り込みではなく。高等教育の面白さを。)

ACの担っている用務(2)

- u 対学内
 - u AO入試の管理・運営、支援
 - u 入試全般の助言、支援
 - u 入試分析: 選抜状況の把握
 - l 入学者選抜研究委員会(入選研)
 - l 本来は1979年(S54)から継続されているはずなのだが
 - u 追跡調査や学修動向の把握: IRにも通じる
 - u 将来の入試改革に備える: 未来への備え
 - l 入学者選抜改革の実現に向けた取組の支援
 - u 入試研究

25

入試研究の一例

- u 作題者に対して統計情報を提供(評価資料)
 - n 平均、標準偏差
 - n 設問解答率分析図
 - n 得点分布
 - n 試験問題DB、教科書DB
 - n 連関表
- u 入試の振る舞いの把握
 - n 合否入替り率
 - n 入試問題の改善、...
 - n 追跡調査
- u その他
 - n 得点調整
 - u 分位点差縮小法
 - u 等化
 - n 調査・アンケート等
 - n 調査研究: 総合試験、高大連携、試験情報の整備、...
 - n 研究開発: 評価方法、...

26

ACスタッフの研究領域

- u 研究領域
 - u 教育学、高等教育論、教育行政
 - u 統計学: 統計処理
 - l 参考書、処理経験が生きてくる、統計検定もあるよ!
 - u その他、多岐にわたる
- u 活動の場
 - u 学内: 入学者選抜研究委員会(入選研)
 - u 学外: 全国大学入学者研究協議会(入研協、2006年(H18)-)。
元は国立大学入学者研究協議会(1979年(S54)-2005年(H17))。
 - u 日本テスト学会(2003年(H15)-): 大会/年

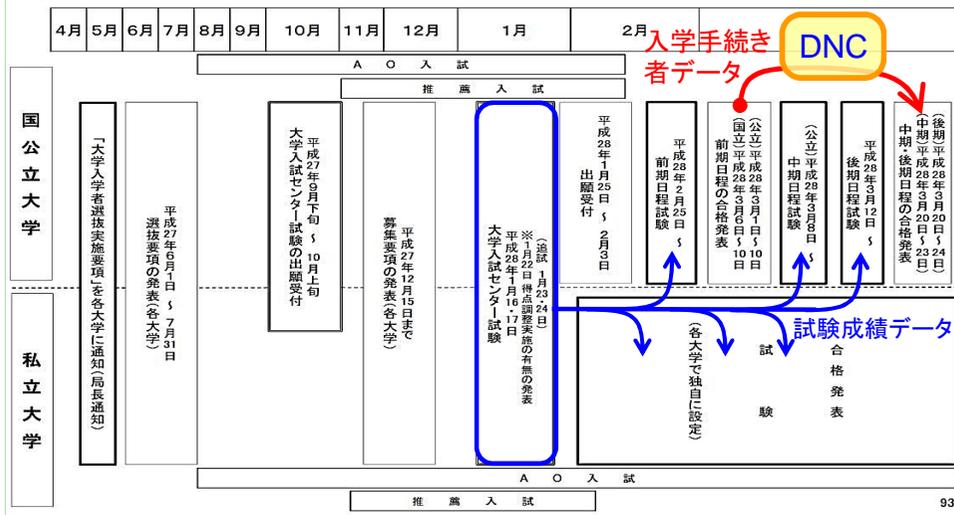
27

求められるスキル

- u 「大学」の熟知
 - u 自大学のみならず他大学も
 - u 入試業務・仕組みの把握
 - u 入試動向・教育行政の把握
 - u (初等&)中等教育の把握
 - u 高等教育の在り方
 - u 在るべき姿が語れるか
 - u 情報処理・統計処理技術
 - u データハンドリング、データ解析、報告
 - u (プレゼンテーション能力?)
 - u 入試課との連携
 - u IR部門との連携
 - u 学内での発言力
 - u グループワーク
- 【私見】

 - u 高大接続を担っているという気概
 - u 高校と大学の関係性
(高校教員の支援ではなく)

28



- u DNC: 共同実施＝作題、実施、採点のみならず
- u 入学手続き者の確定・周知機能: 新テストでは?

高校教員との交流・勉強会

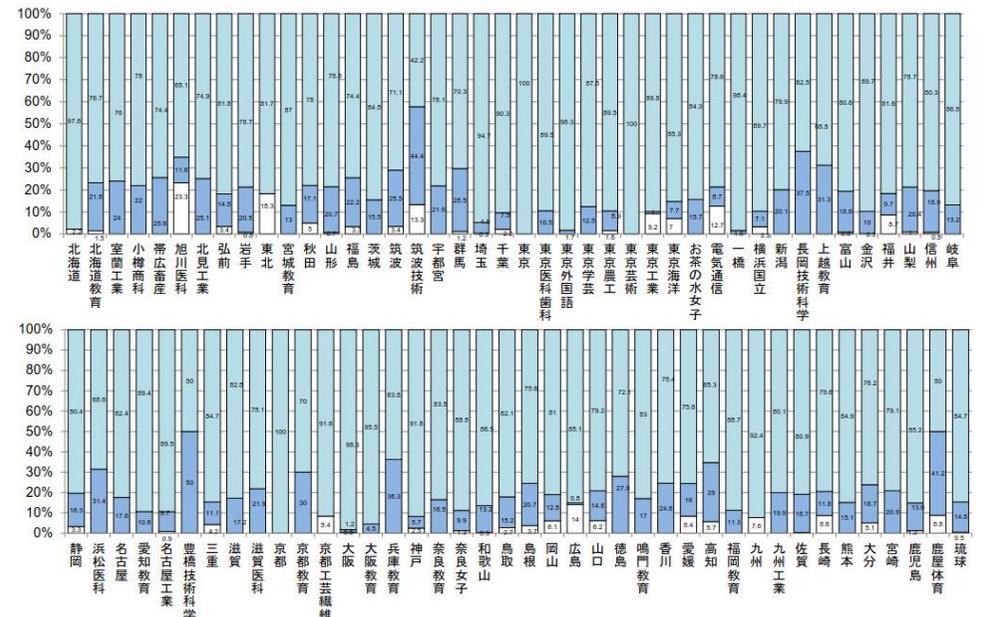
- u 教育委員会によっては 進路指導教員を中心とした研究会あり
 - u 「高校が元気にならないと大学は元気になれない」
 - u 日本中等教育ネットワーク
 - u 鳥取、岡山、徳島の3名の高校教諭から(07年から)
 - u 県を越えての高校教諭の集まり: 127名(2016.7現在)
 - ┆ 新潟(1), 鳥取(16), 島根(17), 岡山(15), 広島(14), 山口(8), 徳島(15), 香川(11), 愛媛(8), 高知(15), 長崎(4), 鹿児島(3)
 - u 年に1回の勉強会。熱心な議論、意見交換。
 - u 進路指導関係が多いが、それに限定されない。
- ===> 今春(3/18): 大塚 雄作 先生(大学入試センター)
- ┆ 『センター試験』の現状と課題
 - 入学試験のあり方を探る基本的論点とは

5. まとめて代えて

- u アドミッションセンター
 - u 高校と大学の接点: 大学生予備軍に会える
 - u 求められている作業は意外とマルチなのではないか
 - u 教職員の人材育成が急務
- u これからのアドミッションセンター
 - u 中教審答申や国大協の改革プラン(※)を追い風として
 - u 学力の三要素を測る: 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
 - u 受験者を選考する部署として確立されるべき
 - u 活力ある大学を維持・発展させるために

※「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」、国立大学協会、2015年9月14日。
 (<http://www.janu.jp/news/teigen/20150914-wnew-actionplan.html>)

国立大学における入試区分毎の募集人員の割合(平成27年度入試)



高大接続システム改革会議「最終報告」の公表について(平成28年3月31日)